（様式第 9）

番　　号
平成 22 年 10 月 4 日

関東信越厚生局長　殿

開設者名　学校法人　聖マリ[redacted]
理事長　　明石[redacted]

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務に関して報告します。

記

1　高度の医療の提供の実績　→　別紙参照（様式第 10）
2　高度の医療技術の開発及び評価の実績　→　別紙参照（様式第 11）
3　高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	84 人

（注）　前年度の研修医の実数を記入すること。

4　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
　　→　別紙参照（様式第 12）
5　診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
6　他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
　　→　別紙参照（様式第 13）
7　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種		員数
医師	487人	15.2人	502.2人	看護補助者	41人	診療エックス線技師		人
歯科医師	人	人	. 人	理学療法士	17人	臨床検査技師	臨床検査技師	93人
薬剤師	70人	人	70.0人	作業療法士	7人		衛生検査技師	人
保健師	79人	人	79.0人	視能訓練士	8人		その他	人
助産師	30人	1.9人	31.9人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師		人
看護師	845人	21.3人	866.3人	臨床工学技士	22人	医療社会事業従事者		7人
准看護師	2人	0.5人	2.5人	栄養士	4人	その他の技術員		28人
歯科衛生士	人	人	. 人	歯科技工士	人	事務職員		161人
管理栄養士	9人	人	9.0人	診療放射線技師	63人	その他の職員		3人

（注）　1　報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
　　2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
　　3　「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8　入院患者、外来患者及び調剤の数
　歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	828.73 人	人	828.73 人
1日当たり平均外来患者数	2367.84 人	人	2367.84 人
1日当たり平均調剤数	1428 剤		

（注）　1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
　　2　入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
　　3　外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
　　4　調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤感受性検査（HDRA法又はCD－DST法）	2人
超音波骨折治療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的骨形成術　有痛性悪性骨腫瘍	102人
経皮的肺がんラジオ波焼灼療法　原発性又は転移性肺がん（切除が困難なものに限る。）	0人
CT透視ガイド下経皮的骨腫瘍ラジオ波焼灼療法　転移性骨腫瘍（既存の治療法により制御不良なものに限る。）又は類骨腫（診断が確定したものに限る。）	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注1）「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注2）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下直腸固定術 （平成22年10月1日・先進医療の届出）	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ： 従来、直腸脱に対する外科的治療としては、経会陰的アプローチと経腹的アプローチが行われてきた。両者の特徴は経会陰的アプローチでは開腹をせずに脱出した直腸を会陰部から処理するために、侵襲が少ない利点がある反面、直腸脱の再発率が高いという欠点を有していた。一方、経腹的アプローチは再発率は低いが、開腹術をするため侵襲が大きくなる欠点を有していた。腹腔鏡下直腸固定術は、下腹部の皮膚に5～12mmの小切開を4箇所加えるのみで、低侵襲で再発の少ない手術方法である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注） 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾　患　名	取扱患者数	疾　患　名	取扱患者数
・ベーチェット病	190人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	83人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	103人	・原発性胆汁性肝硬変	351人
・全身性エリテマトーデス	1022人	・重症急性膵炎	13人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	50人
・再生不良性貧血	120人	・混合性結合組織病	98人
・サルコイドーシス	142人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	13人
・強皮症，皮膚筋炎及び多発性筋炎	356人	・網膜色素変性症	58人
・特発性血小板減少性紫斑病	85人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	33人	・肺動脈性肺高血圧症	68人
・潰瘍性大腸炎	173人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	28人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	124人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	1人
・天疱瘡	58人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	114人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	62人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	80人
・悪性関節リウマチ	57人	・脊髄性筋委縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病）	349人	・球脊髄性筋委縮症	4人
		・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	29人
・アミロイドーシス	66人	・肥大型心筋症	107人
・後縦靱帯骨化症	71人	・拘束型心筋症	0人
・ハンチントン病	3人	・ミトコンドリア病	0人
・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	20人	・リンパ脈管筋腫症（LAM）	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	37人	・重症多形滲出性紅斑（急性期）	2人
・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	14人	・黄色靱帯骨化症	21人
・多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群）	29人	・間脳下垂体機能障害（PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症）	460人
・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2人		

（注）「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第10）

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・
・センチネルリンパ節生検	・
・眼底三次元画像解析	・
・画像等手術支援加算：実物大臓器立体モデルによるもの	・
・抗悪性腫瘍剤感受性検査（HDRA法又はCD－DST法）	・
・超音波骨折治療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法（平成六年厚生省告示第五十四号）に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断：手術材料マクロ検討会1回/週、腎カンファレンス2回/月、乳腺カンファレンス1回/月、婦人科カンファレンス1回/月、骨軟部カンファレンス1回/2月、CPC3回/年　臨床検査：週に3回（乳外、小児、心外）
部検の状況	部検症例数　60 例　／　部検率　9.30%

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
別紙参照					
				補	
				補	
				補	
				補	
				補	
				補	
				補	
				補	
				補	

計34

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙参照			

計109

（注） 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	アネキシン7を中心とした関節リウマチ病態と治療法の研究-プロテオミクスの応用-	加藤 智啓	生化学	4,500,000	補委	(独)日本学術振興会
2	胚性幹細胞から分化誘導した網膜神経節細胞の移植による緑内障の治療	黒川 真奈絵	生化学	600,000	補委	(独)日本学術振興会
3	気流制限における気管支鏡下カテーテル法による気道内圧測定	宮澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
4	メラノサイト及びメラノーマ細胞におけるBMPとKit、Mitfとの相互関係	川上 民裕	皮膚科学	900,000	補委	(独)日本学術振興会
5	統合失調症患者に長期併用投与された抗コリン薬の減量中止に関する研究	宮本 聖也	神経精神科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
6	新規抗うつ薬結合蛋白質のDynamin-1過剰発現マウスの抗うつ薬投与後の行動解析	長田 賢一	神経精神科学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
7	Basal-like乳癌の術前化学療法におけるDNA損傷応答の解析	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
8	親子の骨強化啓発活動の研究(骨粗鬆症の一次予防に骨量測定・栄養指導は必要か)	清水 弘之	整形外科学	300,000	補委	(独)日本学術振興会
9	卵巣組織移植に関する基礎的研究ー若年女性がん患者の生活の質向上を志向して	鈴木 直	産婦人科学(婦人科)	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
10	糖脂質とトランスポーターの発現を指標にした卵巣癌の抗癌剤治療の適正化	木口 一成	産婦人科学(婦人科)	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
11	新規めまいリハビリテーションの開発を目的とした基礎研究	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学	500,000	補委	(独)日本学術振興会
12	羊胎仔尿路閉塞による胎児治療は多嚢胞性異形成腎の発生分子に影響をあたえるか？	北川 博昭	外科学(小児外科)	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
13	色素性皮膚疾患の胚性医療学的インターベンション	熊谷 憲夫	形成外科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
14	敗血症に伴う重症末梢神経炎の発生機序の解明ー第X因子阻害薬の保護効果の検討ー	日野 博文	麻酔学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
15	微弱電流は筋損傷の修復を促進させるか～免疫組織化学的分析～	藤谷 博人	スポーツ医学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
16	脳梗塞の進行増悪における炎症性バイオマーカーの変化とスタチンの効果に関する研究	長谷川 泰弘	内科学（神経内科）	900,000	補 委	（独）日本学術振興会
17	H/H-MCAマイクロアレイを用いた食道癌治療法決定システムの開発	伊東 文生	内科学（消化器・肝臓内科）	2,200,000	補 委	（独）日本学術振興会
18	間欠的虚血ストレスの糖尿病性腎症進行への影響と脂肪酸結合蛋白の役割	木村 健二郎	内科学（腎臓・高血圧内科）	2,300,000	補 委	（独）日本学術振興会
19	プロテオミクスを用いた人種別血管炎患者における抗血管内皮細胞抗体の対応抗原の同定	唐澤 里江	難病治療研究センター	1,300,000	補 委	（独）日本学術振興会
20	早発閉経発症の分子機構ー卵巣で発現するFMR1遺伝子の機能解析によるアプローチ	石塚 文平	産婦人科学（産婦人科）	1,100,000	補 委	（独）日本学術振興会
21	初期中皮腫に対する革新的な診断法および治療法の開発	網中 雅仁	予防医学	1,500,000	補 委	（独）日本学術振興会
22	筋ジストロフィー症の新規治療法としての霊長類胚性幹細胞由来筋細胞の移植応用	鈴木 登	免疫学・病害動物学	1,200,000	補 委	（独）日本学術振興会
23	疾患に関連する蛋白質＜翻訳後修飾＞の複数同時探索系の確立	加藤 智啓	生化学	2,100,000	補 委	（独）日本学術振興会
24	超音波画像のコンピューター解析に基く新しい肺癌診断法の開発	多賀谷 理恵	外科学（呼吸器外科）	140,000	補 委	（独）日本学術振興会
25	HERC2によるS期およびG2/M期チェックポイント制御機構の解析	太田 智彦	外科学（乳腺・内分泌外科）	3,200,000	補 委	文部科学省
26	BRCA1ユビキチンリガーゼによるDNA損傷応答	太田 智彦	外科学（乳腺・内分泌外科）	3,200,000	補 委	文部科学省
27	生活環境が反映された人骨形質の時代的変遷から、日本人の形成過程を探る	澤田 純明	解剖学	1,100,000	補 委	文部科学省
28	糖尿病に於けるアペリンAPJ系機能解析（糖尿病性腎症の増悪因子か？）	村尾 命	内科学（腎臓・高血圧内科）	1,400,000	補 委	文部科学省
29	アンドロゲン環境が膀胱機能に及ぼす影響：平滑筋収縮に関わる因子を指標とした検討	中澤 龍斗	泌尿器科学	1,400,000	補 委	文部科学省
30	TNF-α誘発視神経障害における軸索輸送物質とマイクログリアの分子生物学的関係	北岡 康史	眼科学	1,300,000	補 委	文部科学省

（様式第11）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
31	骨格筋αアクチニン3タンパク質の加齢に伴う発現変化とその運動適応に関する研究	小倉 裕司	生理学	1,900,000	補 委	文部科学省
32	HPV-B19ウイルスタンパクによる血液凝固系への影響の解明	武藤 真二	小児科学	1,400,000	補 委	文部科学省
33	遺伝子改変マウスを用いたBACH1の機能解析	速水 亮介	外科学（乳腺・内分泌外科）	1,700,000	補 委	文部科学省
34	緑内障性視神経症の無髄軸索内ミトコンドリア行動異常の制御機構	宗正 泰成	眼科学	1,400,000	補 委	文部科学省

計 34件

（注） 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者名	所属
1	映像情報Medical 2009 Vol.41(6) p.623-	IVRの新しい波_局所進行乳癌に対する新たな動注化学療法の試み	嶋本　裕	放射線医学
2	臨床画像 2009 Vol.25(8) p.890-	骨粗鬆症と圧迫骨折_圧迫骨折と鑑別を要する骨腫瘍の診断	立澤夏紀	放射線医学
3	IVR会誌 2009 Vol.24(2) p.128-	産科緊急止血のIVR_NBCA-LPDを用いた産科出血に対する動脈塞栓術	吉松美佐子	放射線医学
4	日本乳癌検診学会誌 2009 Vol.18(2) p.176-	当院の非浸潤性乳管癌（DCIS）におけるマンモグラフィ（MMG）および超音波（US）の仮想検診感度の比	岡崎寛子	放射線医学
5	腫瘍内科 2009 Vol.3(6) p.631-636	乳癌_乳腺疾患の画像診断	印牧義英	放射線医学
6	日足外会誌 2009 Vol.30(2) p.71-74	Tenosynovitis of Flexor Hallucis Longus Tendon(FHL) in Synchronized Swimming	Yuko Kobashi	放射線医学
7	Rad Fan 2009 Vol.7(8) p.27-30	最新の消化器画像診断_CT Colonographyにおける新たな診断技術	森本　毅	放射線医学
8	消化器外科 2009 Vol.32(12) p.1823-1829	消化管出血に対するIVR	小川普久	放射線医学
9	Cardiovasc Intervent Radiol 2009 Vol.22 p.1-6	Clinical Application of a New Indwelling Catheter with a Side-Hole and Spirally Arranged Shape-Memory Alloy for Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy	Kunihiro Yagihashi	放射線医学
10	General Thoracic and Cardiovascular 2009 Vol.57(12) p.640-646	Magnetic Resonance-thoracic Ductography:Imaging Aid for Thoracic Surgery and Thoracic Duct Depiction Based on Embryological Considerations	Itsuko Okuda	放射線医学
11	日本乳癌検診学会誌 2010 Vol.19(1) p.35-40	マンモグラフィ検診の二次読影における遠隔画像診断の有用性に関する検討_ーマンモグラフィ検診遠隔画像診断支援モデル事業に参加してー	奥田逸子	放射線医学
12	画像診断 2009 Vol.29(6) p.662-672	感音性難聴を呈する内耳・内耳道奇形の画像診断_人工内耳の適応を含めて	栗原宜子	放射線医学
13	Rad Fan 2009 Vol.13(7) p.75-77	基本に立ち戻って　親カテーテル／ガイディングシステムを考える_ビッグテール型カテーテルによる血管選択術	小川普久	放射線医学
14	日本医事新報 2010 No.4482 p.54-64	臨床医学の展望_臨床放射線医学ー診断面とIVRー	中島康雄	放射線医学
15	眼科手術 2009 22(3) P.407～411	Tenon嚢処理を行ったサイヌソトミー併用トラベクロトミーの手術成績	井上順	眼科学
16	あたらしい眼科 2009 26(7) P961～965	GDx VCC®とCirrus HD-OCT®による網膜神経線維層厚の解析-上下視野別の相関について-	徳田直人	眼科学
17	Intensivist 2009 1(2)P.275～290	末梢循環不全とearly goal-directed therapy(EGDT)	平泰彦	救急医学
18	Intensivist 2009 1(2)P.366～368	sepsisにおける血圧ｺﾝﾄﾛｰﾙ MAP65mmHg以上のｴﾋﾞﾃﾞﾝｽと血管作動薬のｴﾋﾞﾃﾞﾝｽ	藤谷茂樹	救急医学
19	ﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄﾉｰﾄ 2009 11(3)P.342～346	ICUﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ写真の注意点とARDS	松本純一	救急医学
20	侵襲と免疫 2009 18(2)P.62～68	【"SSC guidelines"はわが国にどのような影響を与えたか】 Early goal-directed therapyによる循環管理の有効性と限界	平泰彦	救急医学
21	Intensivist 2009 1(3)P.553～564.	腹部ｺﾝﾊﾟｰﾄﾒﾝﾄ症候群(ACS)とAKI ACSとIAHの定義から診断、管理、予後まで	若竹春明	救急医学
22	脳神経外科ジャーナル別冊	抗癌剤による化学療法が若年女性癌患者の妊孕性に及ぼす影響	鈴木直	産婦人科
23	日本産科婦人科学会　関東連合地方部会誌　第117回学術集会抄録号 2009 46 (2) : 211	腟式子宮全摘術への生理的食塩水バソプレシン使用の比較検討	大熊克彰	産婦人科学
24	血液フロンティア 2009 19 (7) : 55-61	外科手術後の静脈血栓塞栓症（VTE）に対する新しい抗凝固薬の有用性	鈴木直	産婦人科
25	Neuroscience Letters 2009 462 P.6～9	Evaluation of the vestibulo-ocular reflex using sinusoidal off-vertical axis rotation in patients with acoustic neurinoma.	Akemi Sugita-Kitajima	耳鼻咽喉科学
26	Neuroscience Letters 2009 463 P.207～209	Somatosensory input influences the vestibulo-ocular reflex	Akemi Sugita-Kitajima	耳鼻咽喉科学

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者名	所属
27	耳鼻咽喉科臨床 2009 102(7) P.539～542	急性小脳失調症を合併したRamsay Hunt 症候群	北島明美	耳鼻咽喉科学
28	耳鼻咽喉科臨床 2009 102(8) P.617～622	末梢性めまいと鑑別困難であった小脳梗塞例	北島明美	耳鼻咽喉科学
29	日本耳鼻咽喉科学会会報 2009 112 P.656～659	多発脳神経障害を合併したRamsay Hunt症候群	北島明美	耳鼻咽喉科学
30	耳鼻咽喉科臨床 2009 102(10) P.807～811	外リンパ瘻を併発した脳腫瘍例	北島明美	耳鼻咽喉科学
31	JOHNS 2010 26(2) P.265～268	ダックビルエレベーターとテラメッサー	肥塚泉	耳鼻咽喉科学
32	麻酔 2009 58 (5) 613-615	婦人科腹腔鏡下手術中の尿量に対するレミフェンタニルの影響	矢郷泰子	麻酔学
33	麻酔 2009 58 (8) 1007-1009	抗リン脂質抗体症候群患者の閉塞性動脈硬化症人工血管置換術の麻酔経験	安藤由美	麻酔学
34	日本ペインクリニック学会誌 2009 16 (4) P469-473	Electroneuronographyによる末梢性顔面神経麻痺の予後判定：口輪筋での検討	武富麻恵	麻酔学
35	臨床麻酔 2101 34 (1) P85-88	全身麻酔での帝王切開中の喘息発作について	田尻治	麻酔学
36	麻酔 2010 59 (1) P183-187	レミフェンタニルによる気管・気管支ステント留置の麻酔管理	森田さおり	麻酔学
	J Pediatr Hematol Oncol 2009 31(1):27-32	A nationwide survey of newly diagnosed childhood idiopathic thrombocytopenic purpura	Shirahata A	小児科学
38	Catheter Cardiovasc Interv 2009 73(7):933-40	Outcomes of emergent cardiac catheterization following pediatric cardiac surgery.	Aso K	小児科学
39	ネオネイタルケア 2009 22:24-29	母乳育児の準備：非栄養的吸啜とカンガルーケア	吉尾博之	小児科学
40	日本検査血液学会雑誌 2009 10(2):167-173	第VIII因子インヒビター測定法4法の特性比較と補正値による評価法の検討	山崎哲	小児科学
41	小児内科 2009 増刊号41	急性骨髄性白血病、小児疾患診療のための病態生理	木下明俊	小児科学
42	日小血学誌 2009 23:298-302	小児急性骨髄性白血病おける包括的中央診断	木下明俊	小児科学
43	a survey of 51 cases from the Tokyo Children's Cancer Study Group. St. Marianna Med J 2009 37:37-43	The role of allogeneic bone marrow transplantation in children with acute myeloid leukmia carrying t(8;21)(q22;q22).	Kinoshita A	小児科学
	Am J Cardiol. 2009 104(6):862-7	Effect of transcatheter pulmonary valve implantation on short-term right ventricular function as determined by two-dimensional speckle tracking strain and strain rate	Moiduddin N	小児科学
45	Life Sciences 2009 85(17-18):609-16	Antenatal glucocorticoid therapy increase cardiac alpha-enolase levels in fetus and	Tsuzuki Y	小児科学
46	Catheter Cardiovasc Inter 2009 74(5):753-61	Balloon dilation of pulmonary valve stenosis in infants less than 3 kg: a 20-year experience.	Karagoz T	小児科学
47	小児看護 2009 32(12):1552-1561	血友病の治療；補充療法	長江千愛	小児科学
48	クロスハート 2009 23:01:00	血友病に対する補充療法の革新－定期補充療法－	瀧正志	小児科学
49	Medimond 2009 612:51-56	Neonatal Seizures as Chronic Epilepsy.	Yamamoto H	小児科学
50	Neuroimage 2010 49:2735-2745	Cortical-gamma-oscillations modulated by listening and overt repetition of syllables.	Fukuda M	小児科学
51	Circ J 2010 74(1):171-80	Antenatal glucocorticoid therapy accelerates ATP production with creatine kinase increase in the growth-enhanced fetal rat heart.	Mizuno M	小児科学
52	診断と治療 2010 98(2)	インヒビター保有血友病患者の止血管理における室温保存製剤の意義	瀧正志	小児科学

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者名	所属
53	Allergology International 2009 58:No3357-363	Effects of salmeterol and fluticasone propinate combination versus fluticasone propinate on airway function and eosinophilic inflammation in mild asthma.	星野誠	内科学（呼吸器・感染症内科）
54	J Med Ultrasound 2009 17（1）31-43	Overview of Endobronchial Ultrasonography in Chest Medicine depth diagnosis EBUS-TBNA, endobrochial ultrasonography(EBUS), guide sheath, transbronchial needle aspiration (TBNA)	栗本典昭	内科学（呼吸器・感染症内科）
55	呼吸と循環 2009 Vol57No6	呼吸器疾患治療の進歩：薬物療法と非薬物療法 COPDの非薬物療法	宮澤輝臣	内科学（呼吸器・感染症内科）
56	呼吸器ケア 2009 7巻7号P697-P702	CaseStudy子宮ケアにつなげる患者アセスメント気管支喘息	駒瀬裕子	内科学（呼吸器・感染症内科）
57	呼吸 2009 Vol28No8 p771-p776	COPDにおける気管支鏡インターベンション	宮澤輝臣	内科学（呼吸器・感染症内科）
58	アレルギー免疫 2009 16（1）1790-1796	病診連携による喘息治療の変化と今後の問題点　特に吸入ステロイド薬の使用量	駒瀬裕子	内科学（呼吸器・感染症内科）
59	Respiration 2009 78：432-439	Narrow Band Imaging Applied to Pleuroscopy for theAssesment of Vascular Pattern of the	石田敦子	内科学（呼吸器・感染症内科）
60	Asthma&COPD 2009 p42-p46	COPDにおける治療抵抗性呼吸困難の管理のための肺容量減量手術	峯下昌道	内科学（呼吸器・感染症内科）
	臨床放射線 2010 P2010-2012	肺野型小型扁平上皮癌のthin-sectionCT画像・病理所見および臨床像の検討	山本崇人	内科学（呼吸器・感染症内科）
62	J Infect Chemother 2010 16P49-P52	Paragonimiasis in a person whose symptoms were shown 22years after emigratioing to Japan from Laos	Mizuki Ikehara	内科学（呼吸器・感染症内科）
63	日本臨床生理学会雑誌 2009 39(2)P.87～91	Drug Compliance in Cardiology Inpatients	Masatoshi Hara	内科学（循環器内科）
64	International Journal of Sport Nutrition and Exercise Metabol2009 P.127～135	Heart -Rate Response to Sympathetic Nervous Stimulation, Exercise, and Magnesium Concentration in Various Sleep Condetions	Kazuto Omiya	内科学（循環器内科）
65	Journal of Cardiology 2009 53P.164～170	Peak time of acute coronary syndrome in patients with sleep disordered bregathing	Yuki Ishibashi	内科学（循環器内科）
66	Circulation Journal 2009 73(11)P.2019～2020	Heart Failure and Sleep Apnea	Naohiko Osada	内科学（循環器内科）
67	International Journal of Cardiology 2009 137P.267～275	No effects of human ghrelin on cardiac function despite profound effects on body composition in a rat model of heart failure	Yoshihiro Akashi	内科学（循環器内科）
68	心電図 2009 29(5)P.319～331	非虚血性心室流出路起源心室頻拍におけるﾘｴﾝﾄﾘｰ回路の電気生理学的検討	中野恵美	内科学（循環器内科）
	Annual Review of Medicine 2010 61P.271～286	Stress Cardiomyopathy	Yoshihiro Akashi	内科学（循環器内科）
70	薬理と治療 2010 38(2)P.165～171	Long-term Usefulness of Aprindine Hydrochloride in Elderly Patients	Osamu Tanaka	内科学（循環器内科）
71	G.I. Research 2009 17(4)　P.320~326	胃癌診断におけるDNAメチル化の臨床応用の可能性を探る	渡邊嘉行	内科学（消化器・肝臓内科）
72	肝・胆・膵 2009 59(4)　P.581~585	臓器内に存在する多分化能をもった肝幹細胞とアクチビン・TGFβファミリー	安田宏	内科学（消化器・肝臓内科）
73	消化器科 2009 49(4)　P.336~342	胃洗浄液を用いたメチル化解析の胃癌診断への応用	渡邊嘉行	内科学（消化器・肝臓内科）
74	The Mainichi Medical Journal 2009 5(10)　P.585~656	ペグインターフェロンα2a・リバビリンによる慢性C型肝炎の再治療は有用-プロテアーゼ阻害薬登場までの提案として	奥瀬千晃	内科学（消化器・肝臓内科）
75	脳と循環 2009 14巻3号　P271～274	脳卒中，心血管イベントに対するスタチン療法の性別相対効果：SPARCLサブ解析	長谷川泰弘	内科学(神経内科)
76	Clin Exp Nephrol 200913:P123～129	Preprandial microemulsion cyclosporine administration is effective for patients with refractory nephritic syndrome.	白井小百合	内科学(腎臓・高血圧内科)
77	Nephron Clin Pract 2009112:Pc148-c156	Urinary Fatty Acids and Liver-Type Fatty Acid Binding Protein in Diabetic Nephropathy.	佐々木浩代	内科学(腎臓・高血圧内科)
78	Am J Pathol 2009174:P2096-2106	Urinary Extension of Liver Type Fatty Acid Binding Protein Accurately Reflects the Degree of Tubulointerstitial Damage.	横山健	内科学(腎臓・高血圧内科)

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者名	所属
79	Rapid Commun. Mass Spectram. 2009 23:P3720-3728	Comprehensive analysis of short peptides in sera from patients with IgA nephropathy.	金城永幸	内科学(腎臓・高血圧内科)
80	日本内科学会雑誌 2009 98(9):P305-309	心腎貧血症候群の病態と治療.	木村健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)
81	Clin Exp Nephrol 200913:P537-566	Evidence-based practice Guidline for the Treatment pf CKD.	木村健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)
82	Int Heart J 2010 51(3):P176-182	Evaluation of Renal Microcirculation by Contrast-Enhanced Ultrasound With Sonazoid™ as a Contrast Agent.	鶴岡佳代	内科学(腎臓・高血圧内科)
83	Int.J.Urol.	A case report: primary extragonagal yolk sac tumor of penile shaft in a 2-year-old child.	Nakazawa R	腎泌尿器外科学
84	SPINE 2009 34・20, E724- E728	An experimental study on initial fixation strength in transpedicular screwing augmented with calcium phosphate cement.	T. Masaki	整形外科学
85	膝 2009 33(2)P.20-324	変形性膝関節症に対する運動療法の短期成績	宮本 哲	整形外科学
86	日本手の外科学会誌 2009 25 (4) 331-336.	橈骨遠位端関節内骨折におけるロッキングプレートのスクリューの刺入方向と位置の検討 ―有限要素法の観点から	泉山公	整形外科学
87	Hip Joint 2009 35p.702-705	急速破壊型股関節症における人工股関節置換術前後の骨盤傾斜	石井庄次	整形外科学
88	Hip Joint 2009 35P.712-715	人工股関節置換術症例における冠状面骨盤傾斜の検討	増田敏光	整形外科学
89	Clinical Biomechanics 2009 24 776-780	Effects of foot orthoses on the work of friction of the posterior tibial tendon.	Takaaki Hirano	整形外科学
90	J. Bone Joint Surg. 2010 92(3): 380-386.	Combination joint-preserving surgery for forefoot deformity in patients with rheumatoid	Hisateru Niki,	整形外科学
91	関節外科 基礎と臨床 2010 29(3)P.34-39	肘関節 Coonrad-Morrey型人工肘関節の臨床成績と問題点	新井 猛	整形外科学
92	Neurologia medico-chirurgica (Tokyo) 2009 49(5): 193-197	Pharmacokinetic Investigation of Increased Efficacy Against Malignant Gliomas of Carboplatin Combined with Hyperbaric	Y. Suzuki	脳神経外科学
93	日本小児科学会雑誌 2009 113(6): 945-953	小児軽症頭部外傷と画像検査に関する研究	植松悟子	脳神経外科学
94	Geriatric Neurosurgery 2009 21: 51-56	高齢者の破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術とクリッピング術	森嶋啓之	脳神経外科学
95	Neurologia medico-chirurgica (Tokyo) 50(1): 2010 41-44	Subarachnoid Hemorrhage Caused by Ruptured Dissecting Aneurysm Arising From the Extracranial Distal Posterior Inferior Cerebellar Artery -Case Report-	H. Nakamura	脳神経外科学
	Hypertension Research 2009 32 P770-774	Morning home blood pressure may be a significant marker of nephropathy in Japanese patients with type 2 diabetes : ADVANCED-J	Yasushi Tanaka	内科学(代謝・内分泌内科)
97	Endocrine Journal 2009 56(5) P715-719	Primary Malignant Hepatic Glucagonoma : An Autopsy Case	Obi Naoko	内科学(代謝・内分泌内科)
98	Medical Tribune 2009 42(41)	糖代謝異常を合併する脂質異常症患者の脳・心血管イベント抑制を目指した新たな治療戦略ー小腸コレステロールトランスポーター阻害剤エゼチミブの臨床的使用意義ー(Discussion 脳・心血管イベントのハイリスク患者におけるコレステロール管理を考え	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)
99	月刊糖尿病 2009	ヒトインスリン製剤からインスリアンアナログ製剤への切り替え	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)
100	AID(ARKRAY Information for Diabetes educator) 2009	SMBGにまつわる最新の動向-CGM最新知見と院内の精度管理-	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)
101	ホルモンと臨床 2010 57(10) P845-851	原発性副腎不全(アジソン病)の診断	浅井 志高	内科学(代謝・内分泌内科)
102	血圧 2009	副腎静脈サンプリングの適応と判定基準のピットホール	方波見 卓行	内科学(代謝・内分泌内科)
103	Endocrine Journal(2010) 2010 57(2) P135-140	Relationship between Clinical Markers of Glycemia and Glucose Excursion Evaluated by Continuous Glucose Monitoring (CGM).	Suwa T	内科学(代謝・内分泌内科)

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者名	所属
104	けんこうぶんか 2009 No.41 P2-5	メタボリックシンドロームと２型糖尿病-新しい視点と指導のポイントを考える-	田中　逸	内科学(代謝・内分泌内科)
105	日本老年医学会雑誌 2009 46P.40	前期高齢者と後期高齢者の健診結果の比較検討（老人保健法基本健康診査における）	鳥飼圭人	内科学（総合診療内科）
106	日本臨床生理学会雑誌 2009 39(5)P.76	老人保健基本健康診査における性別による健診結果の比較検討	鳥飼圭人	内科学（総合診療内科）
107	救急医学	「内科エマージェンシー病態生理の理解と診療の基本」泌尿器系疾患　腎盂腎炎	児玉貴光	内科学（総合診療内科）
108	検査と技術 2010 38(1)P.73～74	リウマチ性多発筋痛症	鳥飼圭人	内科学（総合診療内科）
109	診療研究 2010 455P.1～11	BPPVを中心とするめまい診療の実践	小宮山純	内科学（総合診療内科）

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長　三宅　良彦
管理担当者氏名	総務部長 薄井隆文、人事部長 松本敏男、事務部長 相沢健男、薬剤部長 増原慶壮、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 栗原泰之、看護部長 高橋恵、栄養部長 川島由起子

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			事務部、薬剤部、看護部、臨床検査部、画像センター、メディカルサポートセンター	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1ｶﾙﾃ方式とし、入院は10年、外来は5年の保存期間を規定としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿		人事部	
	高度の医療の提供の実績		事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績		事務部	
	高度の医療の研修の実績		事務部	
	閲覧実績		事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績		ﾒﾃﾞｨｶﾙｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		薬剤部	
	第規一則号第に一掲条げの十る体一制の第確一保項の各状号況及び第九条の二十	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	

	三第一項	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部	

（注）　「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長　三宅　良彦
閲覧担当者氏名	事務部長　相沢　健男
閲覧の求めに応じる場所	事務部　管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　2　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　1　件
	地方公共団体	延　1　件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	65.4 %	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日

算出根拠	A：紹介患者の数	25,784 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,456 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,857 人
	D：初診の患者の数	50,888 人

(注)　1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2　A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

（様式第 13-2）

規則第１条の１１第１項各号及び第９条の２３第１項第１号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無

・ 医療安全管理指針　平成12年4月1日策定
平成15年9月29日改正
平成16年3月1日改正
平成20年2月1日改正
平成21年1月1日改正
平成22年4月1日改正

・ 指針の主な内容：1 基本理念
2 用語の定義
3 委員会、組織
4 マニュアルの整備
5 職員研修
6 報告制度
7 医療事故等発生時の対応
8 患者からの相談への対応
9 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有
10 指針の改訂

② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	

1 医療安全対策委員会（年16回　内訳：定例11回　臨時5回）

・人員構成：危機管理担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者、医療機器安全管理者
医薬品安全管理責任者、感染制御部長を含む
医師　　名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、事務職1名で構成

・活動の主な内容：

(1) 医療安全に係る事項の審議
＊医療安全管理に係る基本方針
＊リスクマネージャー会議・安全管理室からの提言内容に関すること
＊医療安全対策の立案・実施に関すること
＊医療安全推進に関すること

(2) 事故発生時の対応
＊事故報告書（アクシデント・合併症・バリアンス報告書）の確認
＊患者・家族、マスコミに対する病院としての対応策の検討
(3) 医療安全管理室への改善策等の提言

2 リスクマネージャー会議（年12回）
・人員構成：事故防止担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者を含むﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞｬｰ
（医師40人、看護師33人、技術職16人、事務員11人）

・活動の主な内容：
(1) 当院のｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ・ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ事例の共有

(2) 事故防止の発生要因分析と対策の検討とその評価

(3) マニュアル、事故防止対策の実施状況および評価

③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			平成21年度26回
(1)　第1回職員研修会 講演会1回目	4月17日	自動体外除細動（AED）について 当院救救急センター　医師	153名
(2)　第1回職員研修会 講演会2回目	4月22日	〃	88名
(3)　第1回職員研修会 講演会3回目	5月12日	〃	29名
(4)　第1回職員研修会 講演会4回目	5月14日	〃	26名
(5)　第1回職員研修会 各部署リスクマネージャーからの伝達講習	6月10日～ 7月10日	〃	424名
(6)　第3回職員研修会 講演会1回目	8月12日	医療安全と5S 武蔵野赤十字病院　副院長、呼吸器外科部長 矢野　真先生	450名
(7)　第3回職員研修会 講演会2回目	8月28日	〃	216名
(8)　第3回職員研修会 講演会3回目	9月3日	〃	187名
(9)　第3回職員研修会 講演会4回目	9月8日	〃	82名
(10) 第3回職員研修会 講演会5回目	9月14日	〃	77名
(11) 第3回職員研修会 各部署リスクマネージャーからの伝達講習	9月15日～ 10月31日	〃	665名
(12) 第5回職員研修会 講演会1回目	12月14日	医療事故の経験から伝えたいこと 高山　詩穂先生	501名
(13) 第5回職員研修会 講演会2回目	12月22日	〃	115名
(14) 第5回職員研修会 講演会3回目	1月6日	〃	63名

(15) 第5回職員研修会 講演会4回目	1月7日	〃	167名
(16) 第5回職員研修会 講演会5回目	1月15日	〃	130名
(17) 第5回職員研修会 講演会6回目	1月18日	〃	89名
(18) 第5回職員研修会 各部署リスクマネージャーからの伝達講習	1月20日～ 2月22日	〃	616名
(19) 第6回職員研修会 講演会1回目	3月8日	重大医療事故発想定訓練	468名
(20) 第6回職員研修会 講演会2回目	3月16日	〃	63名
(21) 第6回職員研修会 講演会3回目	3月18日	〃	98名
(22) 第6回職員研修会 講演会4回目	3月18日	〃	201名
(23) 第6回職員研修会 講演会5回目	3月24日	〃	144名
(24) 第6回職員研修会　各部署リスクマネージャーからの伝達講習	3月25日～ 4月23日	〃	502名
(25)KYT研修会	6月19日 7月14日 11月20日	KYT基礎編	51名
(26)KYT研修会	6月30日	KYT実践篇	13名

5,618名

④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・　医療機関内における事故報告等の整備　（有・無）
・　その他の改善のための方策の主な内容
(1) 院内における患者暴力・暴言対応マニュアルを抜本的に見直し、コードホワイト・システム導入予定（平成22年12月1日）
(2) RRS(Rapid Response System院内急変対応システム)の稼働（平成22年6月1日）
(3) 経管栄養チューブ誤挿入防止の取決めの改訂（ph測定の導入）（平成22年4月）
(4) 口頭指示受けメモの作成と活用」

⑤　専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑥　専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）・無
⑦　医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無

・　所属職員：　専任9名（看護師2名、事務職員7名　）
　　兼任5名（医師3名、薬剤師1名、診療放射線技師1名）

・　活動の主な内容：

1　事故防止に関する活動
＊医療安全管理指針の周知徹底
＊インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理
＊各部門のリスクマネージャーとの連絡調整
＊医療安全に関するマニュアル、手順の作成と更新
＊各部門の安全活動状況の把握（巡視）と指導

2　事故調査に関する活動
＊事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価

3　安全教育・啓蒙活動
＊安全管理に関する教育・研修の企画、運営
＊至急回報、e-ラーニング研修の配信
＊安全管理に関する会議の運営

4　患者相談業務
＊苦情、相談の受付及び処理
＊苦情、相談等に係る調査及び報告
＊患者相談窓口の管理運営
＊苦情、相談事案の改善、活用
＊メディエーターに関すること

5　紛争処理業務
＊医療紛争の処理
＊医療の法務・訴訟
＊証拠保全等行政・司法機関からの照会等対応
＊医療事故、紛争の調査

6　院内警備（保安）に関すること

⑧　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

（様式第 13-2）

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) 無
・指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第3版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 11回
・活動の主な内容：夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は微生物学教授で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理部、事務（施設、管理、人事など）の職員で構成されている活動の主な内容は以下の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関すること。2. 院内感染の発生の要因及び対応に関すること。3. 滅菌及び消毒に関すること。4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関すること。5. 原因微生物別感染防止対策に関すること。6. 用途別、菌種別消毒薬に関すること。7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関すること。8. 感染症報告書に関すること。9. 労働災害上の感染措置、取扱いに関すること。10. 院内感染防止のための検査に関すること。11. 環境微生物検査に関すること。12. 感染性廃棄物の適正処理に関すること。13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関すること。14. 病院長からの諮問事項に関すること。15. その他、感染防止に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	1年 約19回
・研修の主な内容：全職員対象の研修会を毎年2回定例で開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習（コース）、初期臨床研修医を対象とした講習、院内清掃業者を対象にした講習などを合計すると年間19回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 3. 感染防止の推進に関する事項 ※平成21年度研修会（全職員対象）内容： （例年行っている会）「インフルエンザについて」（感染担当者意見交換会）、「新型インフルエンザ国内初発例に遭遇して」（感染症学術講演会） （臨時で行った会）「抗菌薬適正使用」、「市中肺炎の診断と治療」、「結核に関する最近の知見」、「当院におけるカンジダ属の分離状況と薬剤感受性について」、「侵襲性カンジダ症の診断・治療を考える」、「新型インフルエンザ今やるべきこと、できること」、「VAP予防」、「HIV感染症」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備　（(有)・無） 1.「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。 4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。 ・その他の改善のための方策の主な内容： 1. 抗MRSA薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施 4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 5.「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行	

（様式第 13-2）

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年数回

・ 研修の主な内容：**平成21年度**

ハイリスク薬品について（講義とｅラーニング）

新診療情報システム使用時の留意点

薬剤師による病棟研修会（抗がん剤使用時の制吐剤(ｲﾒﾝﾄﾞ)の適正使用についてなど）

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成　（(有)・無　）
・ 業務の主な内容：
医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修
年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施
その回毎に重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（(有)・無　）
薬剤部内に医薬品情報室を設置し、製薬会社、DSU、PMDA、海外文献、学会誌、大学図書館より最新情報を入手し、情報提供を行っている。
また、院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知徹底している。

・ その他の改善のための方策の主な内容：
2009年度
・高濃度電解質注射液の薬品名の前【要希釈】の印字とともに該当注射薬に注意喚起のラベルを貼る
・処方監査時に、薬品庫コードを確認後、コードの後にレ点をつける
・薬品に配置場所、表示の変更
2010年度
・持参薬使用の手順作成

（様式第 13-2）

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊒・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容： ・ 人工呼吸器、ポンプなど全部所で使用する機器に関して新入職者、新研修医を対象とした研修を年1回行っている。人工呼吸器などは必要に応じ病棟単位で年4～5回行っている。 ・ 救命センターなど特殊な機器を使用する部署には、研修医などの移動時にCHDF、PCPSなどの操作説明を行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （ ㊒・無 ） ・ 保守点検の主な内容： ・ 中央管理機器（人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等）は使用後の就業点検と年1回の定期点検を行っています。 ・ 病棟などに設置している除細動機などは年1回の定期点検を行っています。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ㊒・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医療機器の不具合などの情報は、メーカーより事務局に集中して入るようになっています。 ・ 医薬品医療機器総合機構などより情報を収集 ・ 収集した情報は医療機器安全管理委員会名で教職員にメール配信	